

# 急げ！ 消防団車両更新

結城 繁



**問** 台宿地区の消防団第5分団は、分団員がいないため、東地区の第26分団が担当している。この経過は。

**消防長** 台宿・新道地区の役員の方も交え、話し合いの結果、26分団の了承の上、このようになった。

**問** 5分団と26分団の消防小屋や車庫の取り扱いは。

**答** 5分団の車両は予備車として保管し、車庫等は26分団の使い方にお任せしている。

**問** 消防団車庫の更新は。

**消防次長** 計画に基づいて順次、更新している。

**問** 消防団車両の更新は。

**消防長** 年2台を計画的に更新している。

**問** 排ガス規制に適合していないディーゼル車は何台あるのか。

**消防次長** 12台ある。

**問** 小堀地区で火災が発生したときには、排ガス規制のある千葉県を通過しなければならぬ。最も近い第1分団の車両も古いので早急に更新すべき。

**消防長** 更新計画に入っている。

# 出産前後や終末期への 支援拡充を

池田 慈



**問** 産後の家庭を支える祖父母世代に今の子育てを伝える「じじばば学級」を実施している。

**福祉部長** 保健センターでは父母に対する教室を開催。そこでは祖父母も歓迎しており、その案内をしていく。

**問** 旧藤代地区には子育て支援センターが一つあるが、近所のママ友をつくるためにも増設を。

**答** 一番利用率が高いが、手狭との声は出ていない。増設の考えはない。

**問** 社協で産前産後の家事支援も実施。周知は。

**答** 5年前から実施。利用者は少なく、支援側のボランティア確保も難しい。

**福祉部次長** 在宅福祉サービスの項目の一つ。特出した広報はしていない。

**問** 終末期に自宅で最期を迎えるため、在宅医療介護連携の課題は。

**答** 守谷市、利根町で取手市医師会に業務委託しており、医師や人材の確保、方針決定に時間を要する。各種団体等と体制充実への協議をしている。

**問** 在宅医療介護連携相談体制は。

**答** 相談窓口の運営、相談

等への対応、地域包括支援センターとの連携がある。医師会事務局内に窓口を設置し、多方面の支援充実を図っている。

# 万全か？ 避難所開設準備

渡部 日出雄



**問** 市内避難所の開設はどのように進んでいるのか。

**総務部長** 健康増進部、教育委員会の職員が避難所担当となり、一つの避難所に2人の体制。スムーズに開設できるように打ち合わせ会議も実施している。

**問** 担当者は、避難所の近くに住んでいる職員か。

**答** 学校の近くに住む教育委員会職員2人に体育館の鍵を預けている。

**問** 避難者が避難していったときには、必ず開いていく体制か。

**答** 避難勧告指示が出されたときには開いている。

**問** 公立でない学校の避難所開設はどうなっている。

**答** 避難所開設の要請時、お渡ししてある災害時優先携帯電話などで施設管理者に連絡をし、協力を得ながら市職員と共に開設する。

**【その他の質問】** 台風災害

29年度の避難所開設訓練。簡易ベッド設置方法なども確認しました。



る体制か。

**問** 公立でない学校の避難所開設はどうなっている。

**答** 避難所開設の要請時、お渡ししてある災害時優先携帯電話などで施設管理者に連絡をし、協力を得ながら市職員と共に開設する。

**【その他の質問】** 避難所の運営・非常時の給水体制

**心配：**  
**放課後児童対策**

遠山 智恵子



**問** 放課後子ども教室と、放課後児童クラブを一体的に実施しているが、大人数のクラブは混乱している。

**答** 学校の近くに住む教育委員会職員2人に体育館の鍵を預けている。

**問** 保護者や支援員へのアンケートを実施して、今後の方針を考えるべき。

**スポーツ生涯学習課長** 年明け早々にはアンケートを実施する準備を進めている。

**問** 出入口が1カ所のクラブ室は危険。早急に対処を。

**答** 検討している。

**問** 藤代小のクラブ室は、室内に男女別のトイレが設計されていたにもかかわらず、いまだ未整備。改善を。

早急に合理的配慮を  
障害者福祉センター



藤代小放課後子どもクラブ

**問** 取手ウエルネスプラザに保健センターが一本化され、旧藤代保健センターは、特定健診等の会場として利用してきた。その後、平成28年から、「障害者福祉センターふじしろ」として利用することとなった。健診時には、福祉作業ができないため、スタッフが工夫をして過ごしている。しかし、猛暑の中、外に出ざるを得ない危険な状況もあり、利用者保護者会からも健診会場の変更を望む声が大きく

# 早急に合理的配慮を 障害者福祉センター

阿部 洋子



**問** 取手ウエルネスプラザに保健センターが一本化され、旧藤代保健センターは、特定健診等の会場として利用してきた。その後、平成28年から、「障害者福祉センターふじしろ」として利用することとなった。健診時には、福祉作業ができないため、スタッフが工夫をして過ごしている。しかし、猛暑の中、外に出ざるを得ない危険な状況もあり、利用者保護者会からも健診会場の変更を望む声が大きく

なっている。来年度から公民館や藤代庁舎を利用した形にすべき。

**健康増進部長** 来年度は、検診車などの関係で既に予定を組んでいるため、再来年度は検討していく。

**国保年金課長** 藤代庁舎を健診会場にすることは、動線の確保が困難。

**問** 健診を受けに来た方は、自ら来れる方。しかし、障害者福祉センターを利用される方には、障害者差別解消法に基づき、自治体が責任を持って合理的配慮をしなければならぬ。来年度からの実施を求め。

**健康増進部長** 再来年度には、双方がよいものを模索していきたい。



障害者福祉センターふじしろの作業の様子